



荘内だより

荘内病院
臨床研修通信
Vol.14
2023.3発刊



臨床研修委員
佐藤 紘一
(小児科)

Vol.14発行にあたって — 当院の取り組み —

みなさんこんにちは。臨床研修委員の佐藤です。所属は小児科ですが、小児科・救急科に加え集中治療の専門医も取得したので状況に応じて立場と思考回路を変えて働いています。

2022年4月からは時代の波に少しでも追いつけるように集中治療センターでICU回診を始めました。日中手術や外来で忙しい医師への診療サポートによる

治療の進行、多職種間での治療方針の共有や顔の見える関係構築を目的としています。各科の有志医師とセンター看護師、臨床工学技士、栄養士、リ

ハビリ、薬剤師など多職種で平日のみですが毎朝有志医師が担当する患者の全身状態を把握・共有するようにしています。始めたばかりでまだまだ試行錯誤している途中ですが、多職種で学び合いながら集中治療のレベルを上げ、研修医の先生に対しても様々な手技や全身管理を通じて急性期医療を学んでもらえる場にしたいと考えています。

急性期の病態が無関係な診療科はほとんどありません。卒業した研修医の先生達が何科に進んでいたとしても、温かいスーパーコメディカルと一緒に南庄内の急性期医療を一緒に守りませんか。起爆剤募集中です。孟宗汁、だだちゃ豆、麦切り、芋煮汁、寒鱈汁などなど研修医時代にみなさんのお腹を幸せで満たした食材が恋しくなったら是非進化する当院に遊びに来て下さい。



Jackson Memorial Hospital 千葉 裕仁 先生

(2009年4月～2011年3月研修)



皆様はじめまして、2009年から2年間臨床研修医として御世話になっておりました千葉と申します。現在は縁あって、米国フロリダ州マイアミの Jackson Memorial Hospital という所で Trauma surgery fellow として勤務させて頂いています。

Trauma surgery というと日本ではあまり馴染みがないと思われそうですが、簡単にいうと外傷全般を専門とし初期治療を担当するとともに、脳外科・整形外科領域を除く頸部から体幹部、近位四肢血管のほぼ全ての急性期外傷手術を担当します。

私は初期研修修了後、帝京大学医学部附属病院救命救急センターで後期研修医として働くうちに外傷診療に興味を持つようになりました。その後外科専攻医のトレーニングを経て外傷の手術を担当するようになりましたが、どうやって治療したら助かるのか分からないような難しい症

例も経験しました。やがてもっと多くの経験をしたいと思うようになり、外傷のトレーニングシステムが充実している米国への留学に向けて準備を始めました。

米国で医師として働くには、USMLE という試験に合格する必要がありますが、私の場合昔から英語が苦手だったのと、仕事と並行して試験勉強をしていたこともあり、免許取得までに4年ほどかかりました。また免許を取得しても実際に米国の病院でポジションを頂けるまで2年ほどかかり、2022年8月からやっと現職として留学できることとなりました。

英語はもちろん大切でその得意不得意により大きく難度が変わるのは当然でしょうが、英語以上に大事なものは、目標に向けて諦めずに継続する力と試験や病院へのアプローチについての正確な情報と戦略だと思います。

これを読んでくださっている方で海外留学に少しでも御興味のある方がおられましたら喜んでお手伝いさせていただきますので、お気軽に御連絡下さい。

先輩の皆様のお便りをお待ちしています。連絡先が変更になった場合もご連絡をお願いします。

【連絡先】

鶴岡市立荘内病院臨床研修秘書 伊藤 江里子

電話：0235-26-5111 Email：kenshu-secretary@shonai-hos.jp



臨床研修リクルートサイト・臨床研修医公式インスタグラム・臨床研修医募集動画

